

公益財団法人岩手県予防医学協会 幼老統合施設 Cocoa

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 ■子ども施設 □住宅 ()
〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 (補助金) □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ()
〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 (建物状況) ■新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 ■子ども □ファミリー □多世代



写真1. デイサービス利用者と子どもたちの交流の様子

0歳から5歳児を対象とした定員71名の保育所と近隣地域の子どもたちを受け入れる児童クラブ、1日約15名の高齢者が利用できる高齢者向けデイサービスから成る複合型の福祉施設「Cocoa」。異世代間の交流を通し子どもたちの健全な人格形成の醸成に役立ち、高齢者のメンタル面や運動機能面などを支え合う。

見学日：2018年8月24日

見学者：山田あすか先生、古賀政好先生、鈴木他15名

案内者：折坂美知子様（園長先生）

■施設概要

所在地：岩手県盛岡市北飯岡四丁目8番45号

施設種別：認可保育所

児童クラブ

デイサービス

運営主体：公益財団法人岩手県予防医学協会

設計：久慈設計

竣工日：2015年3月21日

構造：鉄骨平屋建て

敷地面積：3659.4㎡

建物面積：981.9㎡

園庭面積：286.0㎡

花壇/畑地：5.0㎡/19.6㎡

・保育事業

0歳児…6名（定員6名）

1歳児…12名（定員12名）

2歳児…12名（定員12名）

3歳児…17名（定員13名）

4歳児…16名（定員14名）

5歳児…15名（定員14名）



写真2. 周辺状況（google mapより）

仙北町駅、岩手飯岡駅から徒歩約35分。よぼういがく協会バス停 徒歩0分である。周囲は田んぼと低層住宅街、盛南西バイパスに沿って店舗が立ち並ぶ。



写真3. 外観

駐車場から幼老統合施設 Cocoa を見た様子。北西の風が強いため防風壁を設置している。

参考文献

- 1) 公益財団法人岩手県予防医学協会 幼老統合施設 Cocoa「Cocoa」〈<http://www.aogiri-cocoa.org/>〉2018.9.23 参照
- 2) Always with a Smile(2015)「公益財団法人岩手県予防医学協会幼老統合施設 Cocoa- ココア -」〈http://kuji-act.com/201509_naka.pdf〉2018.9.23 参照



図1. 配置図、平面図

Cocoaは岩手県予防医学協会 Big Waffle に隣接している。建物は園庭を中心にCの形をしている。デイサービスから園庭を挟んで子どもたちの様子を見ることができる。



写真4. 保育所の遊戯室から園庭を見た様子
遊戯室は園庭に面して配置されている。開口部が大きく、明るい空間となっている。見学时が天候が悪く、子どもたちは遊戯室で過ごしていた。



写真5. 保育室

天井の中心にはフックがあり、糸をひっかけて装飾をしているクラスもあった。各保育室から園庭と反対側の庭にでることもできる。

・児童クラブ

- 1年生…24名
- 2年生…9名
- 3年生…15名
- 4年生…9名
- 5年生…3名

・デイサービス

- 定員：15名
- 登録人数：20名
- 1日の利用者：4～9名/日
- 月の延べ利用者：101名/月

■事業概要

幼老統合施設 Cocoa は0歳から5歳児を対象とした定員71名の保育所と近隣地域の子どもたちを受け入れる児童クラブに加えて、1日約15名の高齢者が利用できる高齢者向けデイサービスから成る複合型の福祉施設である。異世代間の交流を通し子どもたちの健全な人格形成の醸成に役立ち、高齢者のメンタル面や運動機能面などを支え合う本施設は、幼児・児童の健やかな育成と高齢者の健康寿命の延伸を目的とする先駆的な施設として計画された。

■経緯

Cocoaの運営主体は公益財団法人岩手県予防医学協会である。保育事業はCocoaが初めてだった。

昭和45年に岩手県知事から法人の設立許可を得て以来、「岩手県民の健康と福祉に寄与する」を基本理念に健診事業を中心に事業を展開してきたが、平成26年に自前の建物を建てるのを機に幼老統合事業を始めることとした。幼児・児童の健全な育成、高齢者の健康を目的とし、高齢者の介護度の維持、または介護度を下げることが目的としている。

児童を対象とした放課後児童クラブも運営し、児童クラブと保育所が同じ場所にあることで、保育所を卒園した子どもの受け入れも考慮した。

「Big Waffle」のオープンから1年後、平成27年4月、健康診断や人間ドック等の健診サービスをおこなう「Big Waffle」と同一の敷地内に「幼老統合施設 Cocoa」をオープンした。

■建物について

- ・園庭を中心に保育所機能とデイサービス機能が向かい合せになるよう施設を円形状に配置し、諸室の機能の繋がりを高めながら一体感を感じられやすく、お互いの生活の様子を垣間見ることができる構成としている。
- ・諸室から直接出入りができ施設利用者同士が容易に触れ合える園庭は、内部と外部との空間の連続性を確保している。
- ・児童クラブの学習室とデイサービスの諸室を隣接させ自然発生的に生まれる交流が効果的な幼老統合ケアに繋がる計画。
- ・デイサービス訪問をするときは靴を履き替える。感染症が流行った時に玄関が分かれているのは良い。今はカーペットをひくことで、靴を履き替えずに移動できるように工夫している。
- ・建築物を半月状にしたことで、どこのクラスで何をやっているかが分かりやすい。

■交流

- ・日常型交流…毎日会うことで仲良くなれる。
日々のお遊戯体操、デイサービス訪問（歌・踊り）、散歩（手つなぎ・歌を歌う）、手先を使う作業等
- ・行事型交流…児童と高齢者で役割を分担する。

夏休みすいか割大会

司会：児童、挨拶：高齢者

カレー作り

野菜洗い：3歳児、皮むき：4歳児、

カット：5歳児・高齢者等

収穫祭

高齢者・園児と一緒に植えたじゃがいもやさつまいもを収穫したり、田植えや稲刈りをしたりする。

クリスマス発表会

園児がリハーサルを高齢者に見てもらい、感想をもらう。

水木だんご作り 等

■交流に対する反応

- ・児童の反応

〇〇おばあちゃんいないの？おばあちゃんかわいい！



写真6. 保育所からデイサービスへの移動の様子
保育所とデイサービスの間で外履きに履き替えなくてもよいように、移動をするときにはマットを敷いている。



写真7. デイサービス利用者と子どもたちの交流の様子

保育所の子どもたちは不定期にデイサービスに遊びに行く。見学時には輪投げをしており、輪投げが成功するとデイサービスの利用者が笑顔で拍手をしてくれたりと、和やかな雰囲気であった。



写真8. 園庭

設立当初は園庭の中心にシンボルツリーを植えていたが、子どもたちが走り回れるよう移植した。

参考文献

1) 公益財団法人岩手県予防医学協会 幼老統合施設 Cocoa「Cocoa」〈<http://www.aogiri-cocoa.org/>〉 2018.9.23 参照

2) Always with a Smile(2015)「公益財団法人岩手県予防医学協会幼老統合施設 Cocoa- ココア -」〈http://kuji-act.com/201509_naka.pdf〉 2018.9.23 参照



写真9. 菜園



写真10. 体育館

学童クラブは Cocoa の建物以外にも、体育館等もある。

- 高齢者の反応
園の行事に全て参加したい。
うるさいという人はいない。
- 児童の家族の反応
核家族のため、高齢者との交流は子どもによい影響があると考えている。
- 高齢者の家族の反応
認知症判断テストの結果が上がったり、ねぼけた言動がなくなってきた人もいる。
他のデイサービスのことは忘れるが、Cocoa のことは覚えている。

■今後の課題

- 世代間交流に必要なメニューやサポート方法についてもっと考えていきたい。
- 職員に対する教育を行いたい。介護士、保育士など資格も対象とする人も違うため、相互の業務を分かりあう必要がある。
- Cocoa に関わる人全ての笑顔を増やしたい。
- 事業の評価方法の構築と公表。
数値で測れるものではないため、事業の評価が難しい。
- 健診事業部門との相互理解に目を向けたい。関心を持つことで疾病予防や健康作りに繋げていきたい。